

木育 MOKUIKU KAWARABAN かわら版

知ろう、使おう、広げよう、みやぎきの木

木育かわら版は宮崎県森林環境税が使われています

CONTENTS

- 木育マイスター研修 1
- 木育マイスター&リーダー研修 2
- ひなた箱スタートアップ&
みやぎき木育地域サポーター研修会 3
- 木材産業界向け勉強会 4

木育マイスター研修

講師：松井 勅尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日時：令和4年6月3日（金）、4日（土） 場所：めぐみ保育園（宮崎市）
受講者：3名



幼児期から始める「みやぎき木育プログラム」を広く啓発・推進していくために、これまで教材・プログラム開発と同時に、モデル園が地域とつながり協力関係を構築する地域サポーターの養成をしてきました。また園での木育を「イベント（行事）から日常へ」意識の転換を促すための保育者を対象とした「リーダー研修」の試行実施も行ってきました。そして新たに、県北・県央・県南の地域で相談役としても活躍してもらう人材の育成「みやぎき木育マイスター研修（全8回）」が今年度から令和6年度までの3年間で開催されます。その第1回目が今回実施されました。

1 ガイダンス講義

マイスター研修の目的は、①宮崎県の施策を理解し、②木材産業や木材に関する基礎知識と、③木工道具の安全な使い方を指導できる技術を学び、また、それを④リーダーや子どもたちに伝えるスキルを養うことです。本年度は4日間4回の研修があり、研修2日目は保育者を対象としたリーダー研修と同時開催とし、1日目で受講する“ひなた箱づくり”と、それに付随する知識などを保育者の方々に伝授する実習の場であることが伝えられました。残り2回は、県博物館を会場として10月と11月に開催されます。



ひなた箱



家村さん



緒方さん



匹田さん

2 ひなた箱づくり

受講者がペアになり、年長児が取り組む木育教材“ひなた箱”について、ひとつひとつの手順を丁寧に学びながら、組み立てていきました。ペアになることにより、木育の大切な願いである“協力する喜び”を体感してもらうことも研修のねらいでした。木工道具を安全に使うためには、姿勢など体の使い方もマスターすることにも時間をさきました。制作と同時に、明日の実習であるリーダーへの伝え方も考えながら取り組んでいました。

3 木に関する基本用語

箱をつくる技術だけでなく、木裏・木表など材料についての知識や、今回使用するスギとヒノキの細胞レベルの特徴なども学びました。また、板だけでなく、丸太を見ながら、心材、辺材から仮道管など、マイスターとして知っておきたい基本用語を、全8回の研修を通して、これから順次学んでいきます。

みやぎき木育プログラムとは・・・

みやぎきの目指す木育（「脱炭素社会の実現への貢献」「林業・木材産業を支える多様な担い手の確保・育成」「林業・木材産業のリーダーの育成」）を達成するために開発された、プログラムです。これまで、年少児～向けのオビスギのペンダント「森の雫」、オビスギの「箸置き」、年中児～向けのヤマザクラの「箸づくり」、オビスギの「チョロ船」が開発されています。

木育マイスター&木育リーダー研修

指導：松井 勅尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日時：令和4年6月4日（土） 場所：めぐみ保育園（宮崎市）
受講者：めぐみ保育園（宮崎市） 保育者、四季の森こども園（日南市） 保育者



日常的に幼児と接する機会のある幼保園の先生が、安全に木育活動を継続できるように、木材や道具の基礎知識を身につけ、安全な使い方を指導できるリーダーとして活動できることを目的とした、「木育リーダー研修」を実施しました。この研修は、前日に松井先生と吉田先生から技術と知識を学んだ、木育マイスター候補者3名が講師となり、リーダーを目指す幼保園の先生方に“ひなた箱”づくりを通して、木の知識と道具の使い方を伝える実習の場でもあります。

1 ガイダンス 講義

松井先生と吉田先生より、みやざき木育リーダーとしての役割と研修の目標が伝えられました。また、木でつくる木育体験とSDGsとの関係についての講義がありました。園の先生方にとっては、7月から年長児に向けてスタートする「ひなた箱づくり」という実践前の大切な学びの場です。

2 『ひなた箱』 づくり

■ 伝えたい願い

めぐみ保育園・・・
給食で使うお盆を作りたいと思いました。これまで、箸置き、箸、と木で作り、木で揃えることで食事の時に、木が持つ暖かさを感じています。食器を置くお盆を命ある木で作ることで、お箸で食事をするのが私たちの命を支え、そのお箸を清潔に保ってくれるのが箸置きで、食器を下で支えるのがお盆、と命が繋がっていることを感じてほしい、20年、30年後もひなた箱が子どもの側にあって欲しい、と願っています。

四季の森こども園・・・
木育に関わり3年目になりますが、木に日々触れ合ううち、木のパワーを感じています。このひなた箱は、蓋をお盆として食事できますし、お便り入れなど、いろんな用途に使えます。普段使うことで、モノに対する愛着もわき、見ても触れても優しい木が豊かな心を育てくれるのでは、と願っています。



■ 制作

前日に「ひなた箱」の作り方を学んだマイスター候補者がリーダーの皆さんに作り方や道具の使い方、また、その時の体の使い方などを細かく伝えていきました。リーダーの皆さんは、実際に子どもたちにどう伝えていけばいいかを考えながら制作しました。

3 木でつくり・ つかう用語

木の道具や材料の名称を確認しました。今回、マイスター候補の匹田さんが提供してくださったオビスギの丸太を活用し、すでに山の仕事をされていて知識をお持ちの匹田さんご自身から丸太からの板の取り方や木の成長についてなど、リーダーとして持つべき知識をレクチャーしてもらいました。『何の木？』テストでは、日本で一番軽い木や宮崎県の県木、チョロ船の木、日本で一番長生きのいきものなど12問のテストで、木に関する知識を確認しました。

松井先生、吉田先生より

- ・「ひなた箱」教材は、初めて玄翁を使って平面の板を組み立て、立体にする教材です。この、子どもにとっては少し大きくて力を合わせてつくる体験は、大きな喜びとなります。箱は一生使い続けることができる大切なモノになると思いますので、日常保育の中で思い気づくりとして卒園までにゆっくりと進めてください。
- ・今の子ども達が木を使わないと、林業や産業がなくなってしまう。「想像力、思いやり」を育むことが木育です。大事なところを押さえて伝えてください。

めぐみ保育園(宮崎市)

導入のお話

“うさぎのだいぐさん ひなたばこづくり”と題した手作りのパネルシアターで、ひなた箱の用途や玄翁の使い方、そして、今まで使ったことのある、ノコギリや紙やすりの使い方を、登場人物のうさぎさんとクマさんの会話で伝えました。

ひなた箱作りの説明

松井先生から、玄翁の説明や注意事項についてお話いただきました。また、これまで使ったことのあるノコギリですが、今回は、ノコギリを横向きにして使うことから、その作業を実際に、園児と地域サポーターの皆さんに見ていただきました。



ひなた箱の組み立て

説明後、園児は地域サポーターのサポートを受け、ひなた箱の完成をイメージし、協力して材料を箱の形に組み立てました。釘穴やダボ穴を確認し、何本必要なのかを一緒に考えました。

保育士の感想

- ・年中までのプログラムとの流れと、命の繋がりを大切にという思いをパネルシアターに込めました。
- ・地域サポーターの方が園児や保護者と会話されている姿を見て、地域との繋がりを感じとても嬉しくなりました。

松井先生、吉田先生の感想

- ・パネルシアターにこれまで学んだことが盛り込まれ、非常によくまとまっていた。

・地域の方が入り一緒に気遣いながらやっているのが良かった。日常の中でのそういうふれあいが成長に繋がると良いと思いました。

ひなた箱スタートアップ&みやざき木育地域サポーター研修会

指 導：松井 勲尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）

吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）

日 時：令和4年6月30日(木) 14:30～15:00 場 所：めぐみ保育園(宮崎市)

7月 1日(金) 10:00～12:00 場 所：四季の森こども園(日南市)

参加者：14名/うち、地域サポーター 8名(めぐみ保育園)

20名/うち、地域サポーター10名(四季の森こども園)

年長児で取り組む“ひなた箱”では、初めて使う道具「玄翁」があります。安全に使うための注意事項などを園児と地域サポーターの皆さんに、各園の保育者が、リーダー研修で学んだことをもとに、工夫して伝えました。

四季の森こども園 (日南市)

導入のお話

年中児の時に作った“チョロ船”。このプログラムのために作られた紙芝居、『チョロ船くんとポンポン船』の読み聞かせを行ったあと、今まで作った教材(森の雫、箸置き、箸)を見せて、何の木だったのかを振り返りました。

その後、スライドで木が生きることや、丸太や板の基礎知識を伝えました。また、今回のプログラム“ひなた箱”の説明と初めて使う道具の玄翁の使い方と注意点も写真やイラストを使い説明しました。

ひなた箱作りの説明/ひなた箱の組み立て

吉田先生から、改めて、玄翁の説明や注意事項をお話していただき、ノコギリを横に向けて切る作業を、園児と地域サポーターの皆さんに見ていただきました。そのあと、地域サポーターの方のサポートを受けながら、園児が“ひなた箱”の完成形を組み立てていきました。



保育士の感想

- ・リーダー研修で学んだ資料を見ながら、どう伝えれば良いかをすごく考え作成しました。
- ・講座が終了し教室に戻る際、園児が地域サポーターの方に手を振っている姿を見たとき、信頼関係が築かれているからこそ、安心して進めることができるんだ、と感じました。

松井先生、吉田先生の感想

- ・先生方が研修で学ばれたことを自分のものにしており、スライドでもSDGsのマークを映すなど、願いが盛り込まれていて素晴らしいと感じました。
- ・地域サポーターの方も元気になって自分の居場所になっていると感じました。

木材産業界向け勉強会

県木青会木育勉強会

講師：松井 勲尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日 時：令和4年7月2日（土） 17:30～19:30 場 所：県防災庁舎5階 53号室（宮崎市）
参加者：25名

現在取り組んでいる“みやざき木育”は、「第八次宮崎県森林・木材長期計画」の中で“林業・木材産業を支える多様な担い手の確保・育成”と位置づけられており、木材産業界と一緒に進めていくことが重要であることから、木育勉強会を開催しました。松井先生から、今、日常的に起こっている異常気象と生業との繋がりや、産業界におけるSDGsとの関わりなどについてお話していただきました。また、「木育カフェ」では、吉田先生から2つのテーマを与えられ、開発したみやざき木育教材の1つである、「オビスギの箸置き」を作りながらグループで意見を出し合いました。



会長の河島さん

全体講義 ～未来のために出来ること～

「過去最も早い梅雨明け」「世界各地での大規模な森林火災」など巷ではニュースが流れています。「気候変動」は林業木材産業にとっても深刻な課題となっています。命ある木を伐採して命を頂いて私達の暮らしが成り立っているという感謝の気持ちを最も実感できるのが、皆さんであると思います。木と人の命を大切にすることを育む、「命の教育」が木育であります。この感謝の気持ちを木青会として、どうやって伝えていくのかを考えることです。

今、県で取り組んでいる“みやざき木育プログラム”は幼児を対象としていますが、12年経てば年長児は18歳となり、担い手となったり、森や木のファンとなってくれます。林業木材産業が、“憧れの仕事”となる出会いの場でもあることも期待しています。



SDGsには17の目標がありますが、みなさんの仕事は、特に“地球に関するゴール”である、No13, 14, 15と密接な関係があります。森林の「公益的機能」が評価される時代になってきたからこそ、県の施策と連携して進めることが大切でしょう。つまり人間だけでなく他の生き物も持続可能な暮らしをおくるために影響しており、脱炭素社会実現へ向けての最前線の仕事です。

本年度県大会のテーマが「木育プログラムへの参画」ということです。是非「何を伝えたいのか、どんな願いを持って講座を行うのか」を大切にしたいと思います。



木育カフェ～未来のために今出来ることは何ですか？

・SDGsを考えて木材産業（仕事）を支えていきたい。今後も勉強会に参加したい。
・親の代からの木青会を、受け継ぎ、自分の子どもに繋げていきたい。
・そう言えば、昔トンカチ号があった。
※意見交換メモより



河島会長の挨拶

SDGsや脱炭素社会の実現など県の重点プロジェクトに掲げられていることを施策面で一致させながら、木青会全員で、木青会らしさとは何かを考え、それぞれ仕事に誇りを持ち一般の方々に理解してもらえることが木育の1つに繋がるのではないかと考えています。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会（宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室）

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ